

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
認知症の理解 II Understanding Dementia II		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義	選択	(介護福祉士養成課程必修)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
認知症の理解 I				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
和田晴美	福祉棟 2F	月・火・水 (授業時間以外)	授業中に指示します	
授業の概要				
認知症の理解IIでは、認知症の理解Iで学んだ医学的知識をもとに、非薬物療法のグループ学習を行う。調査した内容を討議することで十分に理解した後、利用者を設定したロールプレイによる発表を行い、クラス全体の共通理解を図っていく。その後、非薬物療法の一つである「芸術療法」を学生自身が体感することで、療法の効果と必要性を理解する。認知症がある人の心理・行動の特徴を理解し、本人および家族への支援を考える。また、認知症がある人に対する様々な人権侵害を理解し、尊厳を重視した介護を行うための基礎的能力を養う。				
授業の到達目標				
①認知症がある人への非薬物療法の概要を理解できるようにする。 ②認知症がある人と家族への支援を考えることができるようにする。 ③認知症がある人に対する人権侵害と、尊厳を支える地域のサポート体制について理解できるようにする。				
授業の方法				
認知症の理解IIでは、認知症の理解Iで学んだ基礎的知識をもとに、様々な行動に対応し、尊厳を重視した介護を行うための基礎的能力を養う。講義、演習、グループディスカッションを通して認知症介護への理解を深める。また、認知症の理解Iに引き続き認知症に関連するトピックスを新聞や雑誌などから選び、その記事の概要と感想を発表することを課題とする。				
学習の成果				
①認知症がある人にとっての望ましい環境を考えることができる。 ②認知症の非薬物療法の種類を列挙し、説明することができる。 ③芸術療法(臨床美術)を体験することで、認知症高齢者の生活の質の向上に対する効用について考えることができる。 ④認知症がある人を介護する家族のストレスの原因や対処方法について説明することができる。 ⑤認知症がある人への人権侵害の現状を理解し、対策について考えることができる。 ⑥認知症予防の根拠および危険因子を理解し、予防方法を列挙することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(授業のねらい・評価の方法・演習時の注意など) 認知症の理解Iの振り返り			
第2回目	認知症と環境の力① 施設環境と在宅環境 グループホームについて (久保)			
第3回目	認知症と環境の力② 施設環境と在宅環境 宅老所			
第4回目	認知症ケアの原理・原則 認知症がある人へのかかわりの基本			
第5回目	認知症の非薬物療法 【グループ学習①】			
第6回目	認知症の非薬物療法 【グループ学習②】 【課題① 認知症の非薬物療法】			

第7回目	認知症の非薬物療法【ロールプレイによる発表と補足】		
第8回目	認知症の非薬物療法【ロールプレイによる発表と補足】		
第9回目	認知症の非薬物療法【ロールプレイによる発表と補足、まとめ】		
第10回目	芸術療法の実践 「臨床美術」 (臨床美術協会会員 小橋 操先生) 【課題② 体験後のレポート】		
第11回目	認知症の人と家族への支援 家族のストレス、家族へのレスパイトケア		
第12回目	認知症の人と家族への支援 認知症をよく理解するための「九大法則と一原則」		
第13回目	認知症がある人に対する人権侵害の問題と対応		
第14回目	認知症の予防 認知症予防のメカニズム 地域型認知症予防プログラム		
第15回目	授業のまとめと定期試験		
成績評価の方法と基準			
評価の領域		割合	評価の基準
授業参加態度		20%	以下の視点で評価する。授業の準備が整い、講義は集中して必要なことをノートに取り、疑問点は質問して解決できること。ディスカッションでは他者の意見を傾聴し、自ら積極的に発言して学びを深められること。
レポート			
調査報告書		10%	課題①の評価基準Sは、課題を十分に理解しテーマを掘り下げて調査しており、分かりやすい資料を作成し期限厳守して提出すること。課題②は、体験の感想、学び、今後の展望が記載されていること。
小テスト			
中間・学期末試験		50%	文章を読み、正誤を判断する問題等で知識の確認をする。
発表内容(態度含む)		20%	①認知症の非薬物療法グループ学習②認知症に関するトピックスで評価。創意にあふれ、誰にも分かりやすく工夫した発表であり、他者を惹きつけるものであること。①はグループで協力しロールプレイを行っていること。
その他			
教科書と参考図書			
新・介護福祉士養成講座 第12巻 認知症の理解 中央法規出版(認知症の理解Iと共用)			
履修上の心得・ルール			
講義・グループ学習とも積極的に参加すること。教室での飲食、机上への飲み物の放置も禁ずる。やむを得ず欠席した場合は、必ずその部分の学習を補い、届出等は速やかに提出すること。			